



戦没・殉職船員 6万3,567名の御霊の鎮魂と永久の平和を祈念して黙とうを捧げる

# 雨の追悼式に400人集う 第42回戦没・殉職船員追悼式 観音崎公園

# 潮 騒

第 34 号  
平成24年  
8月 1日

公益財団法人日本殉職船員顕彰会  
〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目一五  
海事センタービル  
電話 〇三-三三三三-〇六六二  
FAX 〇三-三三三三-〇六八二

第42回を迎えた恒例の戦没・殉職船員追悼式は5月15日、横須賀市の神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」前で、全国から来られた遺族をはじめ立法および行政関係者、海事関係団体ならびに業界代表者ら400人を超える参列者が集い、例年どおり盛大に執り行われた。

この日は、前例にない二年続きの雨で、浦賀水道よりはるか彼方、太平洋を望むことはできない。海深く今なお眠る御霊の鎮魂と安寧を願って祈りを捧げる参列者は、海底の冷たさと涙雨を重ね合わせて、深い感慨に浸っているようだった。

雨降る中、式典は11時に開式し、国歌斉唱、黙とうに続き、会長式辞、内閣総理大臣追悼の辞が捧げられた。晴天ならば、式次に従って海上自衛隊横須賀音楽隊の勇壮かつ壮麗な吹奏楽が流れるはずだが叶わない。その後献花に移り、会長、遺族代表、海事振興連盟および各界代表に

## 9/8~17 帆船日本丸「横浜みなと博物館」

入場無料

### 戦時徴用船遭難の記録画 横浜で公開

### 船舶画家 大久保一郎遺作展

▼第38回  
「戦時徴用船」遭難の記録画展  
▼会期 9月8日(土)~9月17日(日)  
▼開館時間 10時~17時、月曜日休館  
▼会場 帆船日本丸「横浜みなと博物館」特別展示室 ▼入場無料(有料の博物館とは別ルートで入場できます) ▼主催(公財)日本殉職船員顕彰会 ▼後援(株)商船三井・(公財)日本海事広報協会ほか



大阪商船(現・商船三井)の囁託画家だった大久保一郎画伯は、戦況が悪化した昭和17年、当時の岡田永太郎社長から「次々に沈められる社船の最期を記録にとどめるように」と言われました。

無料公開される遺作37点は、いずれも先の大戦で、そのほとんどが海の藻屑となった戦時徴用船の壮絶な最期と乗組員の悲惨な実相を伝える資料です。

続いて参列者全員が祈りを捧げた。式次は、この後、観世流一門による能楽「海霊」奉納が予定されていたが、雨により閉式。参列者たちは懇親会が行われる観音崎京急ホテルへマイクロバスで移動し、ホテルロビーの特設会場で奉納された。

ふだん鑑賞の機会がない狂言と能の舞を目の前にする参列者たちは、

厳かな雰囲気に入りきり、迫力のある発声や凛とした舞の美しさなど、驚きを隠せない様子であった。

式典を終えて懇親会場へ移った参列者たちは、のどの渴きを潤した後、旧知の仲が再会を喜ぶ様子が随所で見られるなど、参列した遺族や関係者らのかげがえのない交流の場であることが分かる(2面に関係記事)



# 涙雨にぬれて 祈り捧げる

## 第42回戦没・殉職船員追悼式

神奈川県立観音崎公園

式典は、時おり海から強く吹き上げる風雨を突いて始まった。

白居勲理事長の開式の辞に続いて国歌斉唱を行い、「国の鎮め」の曲が流れる中で、戦没・殉職船員6万3567名の鎮魂と永久の平和を祈念して黙とうを捧げた。

式次は移り、顕彰会を代表して前川弘幸会長が式辞を、国を代表して内閣総理大臣追悼の辞を国土交通省海事局の森雅人局長が代読した。

### ◎式 辞 前川 弘幸 会長



本日ここに、第42回戦没・殉職船員追悼式を執り行うにあたり、ご遺族の皆様をはじめ、斯くも多くの関係者の方々のご参列を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。

安らかにねむれ わが友よ  
波静かなれ とこしえに

私達の前に横たわる「戦没船員の碑」には、鎮魂と冥福の願いが刻まれています。本式典を前にした4月18日、新たに11名の殉職船員の名簿が奉安されました。これにより慰霊碑には、太平洋戦争で戦没された船

員6万609名の御霊と、戦後の海難事故等により殉職された船員2千958名の御霊が眠っております。

昭和46年に戦没船員の碑が建立され、当時、皇太子同妃両陛下下のご臨席を賜りました天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、第1回追悼式が挙行されました。爾来、毎年回を重ね、本会が設立された昭和56年からは、殉職船員の御霊もあわせて奉安いたしております。

戦後67年を経て、ご遺族は子供から孫の世代へと移り、悲惨な戦争を知る語り部たちを失おうとしていきます。私達は、明日を担う者たちが二度と同じ轍を踏まぬよう、戦争の不

### ◎内閣総理大臣追悼の辞

森 雅人 国土交通省海事局長代読



条理を語り継ぎ、追悼の機会を絶やしてはなりません。そうした行動と祈りを続けることによって、目の前の穏やかな海のように、永遠の平和がもたらされるものと信じます。

また、戦後の復興や今日の安定した生活を振り返る時、海運や水産などの職場で、心ならずも殉職された船員たちを追想し、そうした尊い命の犠牲の上にあることを忘れてはならないと思います。

終わりに、戦没・殉職船員6万3千567名の御霊に哀悼の誠を捧げ、海洋永久の平和をお誓い申し上げます。本会を代表しての式辞といたします。

を支え、海外との友好の橋渡しをする大切な役割を果たしてきました。その海が戦いの舞台となり、多くの人命が失われることは、海を愛する方々にとって痛恨の極みであったと拝察いたします。

祖国を思い、家族を案じつつ、戦場に散った6万人余の船員の御心情に思いを致すとき、終戦から67年が過ぎ去った今なお、哀惜の念に堪えません。

戦後は、海運業や水産業に奉職し、不幸にして海難や労働災害により2千900人を超える方々がその職に殉じられました。哀惜の念に堪えません。

そして、昨年3月11日に、東北・

第42回戦没・殉職船員追悼式に当たり、6万3千余柱の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

海洋国家たる我が国にとって、海は、恵みをもたらし、我々の暮らし

関東地方を襲った地震と津波は、未曾有の犠牲と被害をもたらし、我が国で中核的な位置づけを誇ってきた地元水産業は、壊滅的な打撃を受けました。海と共に生きる方々にかくも甚大な被害が生じたことは痛恨の極みであります。

被災地の復興は道半ばであります。1日も早く、被災地が再び海と

共に生きることができるよう、よりよい社会の再生に向けた取組を進めてまいります。同時に、海洋の平和や海上交通の安全に全力を尽くすことをお誓い申し上げます。

戦没・殉職船員の御霊が永遠に安らかならんことを、そして御遺族の皆様のお健勝をお祈りして、私の追悼の辞といたします。

鎮魂曲「君は帰る母なる海へ」が流れる中を式次は「献花」に移り、顕彰会を代表して前川会長(写真①)が白菊を捧げたのに続いて、遺族代表献花が行われた。今年の戦没船員遺族代表は、昨年と同じ堀田明道さんと白井貞さん、殉職船員遺族代表の鮫島庸一さん(写真②)と共に大任を果たされた。

◎各界代表の献花

各界から招いた代表献花者は次の方々で、2人から4人のグループにより献花が行われた。

▼海事振興連盟 田中慶秋副会長名



各界を代表して御霊に献花された代表者は20人。その中に加わった今年初めて代表献花者となった神奈川県の松本正則署長。写真⑥

代 入井洋一秘書▽同連盟 高木義明副会長▽国土交通省 森雅人海事局長(写真③)▼日本船主協会 五十嵐誠副会長▽日本内航海運組合総連合会 上野孝会長▽大日本水産会 重義行専務理事(写真④)▼全日本海員組合 藤澤洋二組合長▽全国海友婦人会 橋本則子会長(写真⑤)▼横須賀市議会 山口道夫議長▽横須賀市沼田芳明副市長▽神奈川県横須賀土木事務所 鈴木仁所長▽神奈川県浦賀警察署 松本正則署長(写真⑥)▼海上自衛隊横須賀総監 河村克則海将▽海上保安庁 岩男雅之警備救難監▽国土交通省海難審判所 藤江哲

◎参列者の献花

祭場で能楽「海霊」奉納が行われない雨天式次の最後は、参列者全員による献花で終了する。降り続く雨が一向にやむ気配のない中で、次の式電が披露された。

■防衛省海上幕僚長 杉本正彦

戦没・殉職船員追悼式の開催にあたり関係各位のご尽力に敬意を表すとともに、先の大戦で犠牲になられた戦没船員及び戦後に亡くなられた



戦没船員遺族代表を務められた堀田明道さん(84歳)は、今年も元気に参列された。写真②



殉職船員の御霊が安らかなることお祈りいたします。

■神戸大学長 福田秀樹

第42回戦没・殉職船員追悼式にあたり、戦没・殉職船員各位のご冥福をお祈りいたします。

■鳥羽商船高等専門学校長 藤田稔彦  
ここに眠る、御魂の安らかなることを、お祈りします。

また、毎年10月、福岡市中央区西公園にある光雲神社で「以西底曳網漁船殉難者慰霊大祭」を盛大に挙行する福岡海寿会(山内守武会長)からは、「慰霊の言葉」とともに献花料が寄せられた。

# 戦没・殉職船員の御霊に献杯



写真左は、海事振興連盟の高木義明副会長（前文部科学大臣）

観音崎京急ホテル1階ロビーで能楽「海霊」の奉納が行われた後、参列者たちはレストランに移動し、恒例の懇親会で親交を深めた。

前川会長のあいさつに続いて、献杯に立った森海事局長は、「本日は、戦没船員と殉職船員の御霊の慟哭が聞こえてくるような中で、第42回追悼式がしめやかに執り行われました。この機会に皆様とともに、改めて海の平和と航海の安全をお祈りしたいと存じます。慰霊碑に奉安されている6万3567名の御霊の鎮魂を祈念し、また、ご遺族皆様の末永いご健勝を祈念し、献杯したいと思います」と述べて献杯を促した。

## 能楽「海霊」奉納



能楽「海霊」は、戦没船員と生死を共にされた、宮越賢治船長が御霊の鎮魂と功績を後世に継承するために作詞され、自らシテ（主役）となつて昭和46年5月6日の第1回追悼式で奉納されました。

宮越船長は、昭和61年に亡くなられましたが、以来今日まで観世一門により、途絶えることなく継承され、奉納が続けられています。

## 梶野多恵子さん（宗像市）



父の徴用は、私が生まれて9カ月の時でしたから、父の顔を知りません。この年になって父の事が知りたくて、顕彰会に功績調査を依頼しました。日本水産「山国丸」の通信士

## 木下進弘さん（神戸市）



今回、一緒に来て初参列された井上廣さんとは高校の同級生です。私の祖父が軍属として徴用されたことは知っていましたが、具体的な話はまったく知らなくて、私が物心ついた時には祖母も亡くなっていましたし、母親に聞きましても分から

だった父・塙一二三は、シンガポールから門司港に向けて航行中、昭和20年3月20日に南シナ海で被雷し沈没、戦没したことを知りました。

母は20年前に亡くなりましたが、3人の子供を育てました。父は徴用される時、母に「自分が死んだらどうするか」と尋ねたそうです。戦況が悪いことを予測していて、覚悟の上で出発したようです。父の事をもっと早く知っていたら、母も追悼式に参列できたと思ひ悔やまれます。初めて参列して父を身近に感じる事ができました。

ないということ、そのままになっていました。

昨年夏のクラス会で、井上さんから大叔父が「崎戸丸」で戦没されたことを聞いて、私も顕彰会に問い合わせたところ、詳細な資料を送っていただきました。それによると祖父は、山下汽船「満泰丸」の操機長でした。高雄からマニラ向け航行中、昭和19年7月16日にバシー海峡で米国潜水艦「ガードフィッシュ」の雷撃で沈没しました。57歳と記されていますので、当時としては高齢船員だったのですね。式典に初参加して良かったと思っています。

## 初めて参列した皆様のお話



第42回戦没・殉職船員追悼式は終日それほど降る雨の中で執り行われた。

私は、自家用車と共に安全担当という役割で参加した。11時開式。11時50分、降り続く雨で不便をかちつつも無事終了。参列者約400名はホテルに移動した。ロビーで能楽を奉納の後、懇親会場に移り皆さんホッとされたことと思う。

丁度そのころ、中年のご婦人がタクシーでホテルに着き、タクシーを待たせたままにして、玄関先で不安げにうろうろしました。彼女はハンドバッグを手に、折りたたみ式の日傘をさして、右手にはロフストランド(腕に固定して用いる杖)をついていた。たぶん居合わせた誰もが追悼式とは無関係のホテルのお客様と想ったことであろう。しばらくして顕彰会事務局の田中さんより相談を受けた。

件のご婦人は実は殉職船員のご遺族で、しかも代表献花者に予定されていた方である。九州熊本から来られたが事情により式典に遅れてしまった。折角ここまで来たのだから是非式典会場に行ってみたい。そのためタクシーを待たせている、とのこと。しかし、公園管理事務所の許可がない車は乗り入れできないので、あなたのお車で会場を案内して欲しい。しかも会場の後片付けは間もなく終わるだろうから、事務局の筑波さんが会場にいるうちに行った方が何かと都合がいい、ということもわかった。

私は急いで車を用意し、彼女を助手席

にお乗せしてホテルを出発した。雨雲が低く垂れ、雨は全く止む気配がない。

公園入り口で一旦車を降り、進入禁止の柵を外して車に戻ると彼女はしきりに「すみません」と言いながら私の上着の滴をハンカチで気忙しく拭いてくれた。会場までの曲りくねった上り坂をゆっくり走らせていく道すがら、これから行く慰霊碑には6万余名の戦没船員と2千余名の殉職船員の名前が奉安されていて、勿論あなたのご主人の名前も殉職された日付と共に奉安されていることなどを話した。そしてこの追悼式には5年毎に皇室の御台臨を仰いでいることも話した。

彼女は追憶にひたるように、船長だったご主人は数年前に上五島沖で座礁沈没し、5日後に遺体で見つかったこと。今年還暦を迎える筈のご主人よりも一回りも年下だったから自分を子供のよう思っていたこと。顕彰会から毎年式典のご案内をいただいていたが体調のことなどで参加できず、今回初めて上京したこと、などを話してくれた。私は雨の中の長旅を労った。

会場に着き、帽子もかぶらず後片付けしていた筑波さんに彼女を紹介した。彼はまだ撤収していない来賓席用のテントに彼女を案内し「岩本さん(私はこの時初めて彼女の名を知った)はこの席だったんですよ。こちらへ進んで白菊を受け取り、そちらで献花していただくことになっていたんです」と説明し、献花台の前へと案内した。岩本さんは雨に煙って

何も見えない洋上に目をやり、黒御影石に彫られた碑文を目で追って、泣いた。

碑文石をバックにケイタイで写真を撮り、大碑壁や群像を見上げた後、両陛下の御歌碑へと案内した。

昭和46年の第1回追悼式に当時の皇太子ご夫妻がご臨席された折に、美智子妃殿下が詠まれた、

かく濡れて遺族らと祈る

更にさらにひたぬれて

君ら逝き給いしか

にまつわるエピソードをお話した。

第1回追悼式は今日のように雨の中で挙行された。遺族献花の中に雨に打たれながら4、5歳の幼児(石山広美さん)を連れて献花するのを目に止められた妃殿下は、その幼児をご自身の席のあるテントに招き入れられたという。たぶん同じお年頃の紀宮様のお姿を偲ばれて咄嗟に執られた行動だったのだろうか…と。

岩本さんは又、涙を流された。涙のまま歌碑をケイタイで撮った。

ホテルに戻る車中でも、案内してもらったことへのお礼の言葉を何回も繰り返されていて、気恥ずかしかった。

ホテルの玄関で降りてもらい、懇親会場への案内を実行委員の鈴木修さんに託し、満たされつつも切ない思いのまま一つの役目を終えた。

(平成24年6月7日)



受付は開式30分前に集中する。雨の日は何かと大変だ

式典の運営には大勢のボランティアの支援が欠かせません。第42回追悼式には海事関係13団体・37人と個人協力者6人に顕彰会スタッフ5人を加えた48人が携わりました。当日は雨、8年ぶりの雨だった昨年に続き、2年連続の雨は新記録で予想もしなかった展開でした。昨年の経験が生かされ、大きな混乱もなく終了したことは、一重に皆様のご協力の賜物と感謝いたします。今回も実行委員の皆様から、次回につなげる意見・要望が寄せられましたので一部を紹介します。

## 横須賀海洋少年団

■道家一成さん

あいにく雨の式典だったが、大過なく終了し安堵している。周到な準備のお陰で雨天でも支障なく対応できたと思うが、閉式後のバス乗り場の整理に一工夫する必要がある。

着替えが必要な実行委員のために馬堀海岸駅発のバスを早めてくれたのはありがたかった。

●石井美枝さん

昨年からの案内献花係です。バスの中で「国のために死んだ者に対して、雨ぐらいで来ないのは申し訳ない」と耳にした時、70年も前の戦争の傷の深さを感じました。こうした思いをもって生きていく辛さを、私や子孫にも味わって欲しくないと思いました。戦時中の話を聞く機会が少なくなつた今、貴重な体験をさせていただきました。

昨年に続く雨で、運営は改善され動きやすかった。高齢者が多いことから、雨天の式典はホテルで行い、黙祷、献花を式場で行うことを考えてはどうでしょうか。

●小倉睦子さん

今年で5回目の参加です。ご遺族は年々高齢化が進んでいます。今回

のような荒天や暑さの厳しい日などは体調が心配なので休憩テントの増設が必要です。今回は直前まで着席

## 東京海洋大学海事普及会

■吉田道正さん

1年生から参加を願うようやくなりませんでした。その理由は、家族から離れた海上で殉職された先輩船員とご遺族に哀悼の意を表したかったからです。受付係で接した方々は、最愛の家族を亡くされたご遺族だと考えると、何とも言えない感慨を抱き、胸が痛くなりました。また、受付の皆様から仕事や追悼式の話をお聞きして良い勉強となり、船員職業に一層誇りが持てました。

■広瀬正尚さん

実行委員ということで、前夜に気を引き締めてホテル集合し、夕食時に大先輩たちと打合せをしました。制服姿で参列者に応対するからには、大学はじめや諸先輩に恥ずかしい態度は見せられないと緊張しました。当日は正直言って上手くいかず、もつと気の利いた対応ができたのではないかと反省しています。

多くの参列者の方々から声をかけて頂いたことは、今後への励みとなる

の出来ない状態でした。閉式後、ホテルまでのバスは、整理券を配り休憩テントで待つ方法の検討を。

りました。戦没・殉職船員の方々は大先輩であり、今の日本の礎を築いた方々であると感じ入りました。また、大学OBの方々から色々励ましを頂き、勉学に励み、様々な体験しながら後に続く覚悟をいたしました。どれほど役に立ったのか分かりませんが、このような式典に参加できたことを感謝いたします。

■南野直人さん

私は、式場乗降口で運転手さんに弁当を配る役割でした。弁当を配る単純作業と思っていましたが、リストと車ナンバーを照合し、渡すか否かの判断は正確さを求められ、参列者が殺到するピーク時は大変でした。また、雨天なので弁当が濡れないように注意が必要でした。ピークが過ぎると本来の役目は終わり、バス誘導をサポートしましたが、特異な役割だったため、手際の悪さを反省しています。

■佐藤公泰さん

はじめに戦没・殉職船員の御霊に哀悼の意を表したいと思えます。昭和46年から長年続けられている

戦没・殉職船員追悼式は関係団体と個人協力者の支援で運営されています

▼横須賀海洋少年団(13人)▼東京海洋大学海事普及会(6人)▼全日本海員組合本部(3人)▼全日本海員組合関東地方支部「海友会」(2人)・「木洋会」(2人)▼大日本水産会(2人)▼日本船主協会▼日本内航海運組合総連合会▼船長協会▼全日本船舶職員協会▼日本海事広報協会  
 ▼海技振興センター▼海洋会、以上各1人▼個人協力者(6人)に顕彰会(5人)が加わり、今回は48人で実行委員会を構成しました。順不同

追悼式に初めてお手伝いできて大変光栄です。今日の平和な日本があるのは、こうした人々の犠牲の上にあることが分かりました。毎年、日本各地から大勢の方が慰霊に來られることに大変感動しました。

私は、ご遺族を受付までご案内する係を行いました。バスを降りた所

### 海事関係団体など

■田中善治さん (個人協力者)

式典全体の安全管理を担当した。バス停〜式場間のシャトルバスの運行をスムーズにすること。懇親会を終えてJR横須賀駅へは、ホテル前のバス停を利用するが、道路横断時に利用者のサポートが必要だ。また、懇親会後にホテル玄関で参列者を見送る際、ホテル従業員が「後は私たちががします」と言われたが、実行委員が最後までサポートすべきだ。

■宮寺重男さん

(日本船舶機関士協会)  
 実行委員は七回目。受付で会員の入会方法や会費について説明できなかった。会議で簡単な説明が欲しい。晴・雨両方を経験し、年々手際良さが感じられる。今回は初めての人が多く心配したが、無事終えてホッと

から受付までは、凸凹していて足下が悪く滑りやすいため、スロープ使用の指示があり、高齢の遺族の方に配慮が行き届いていると思います。来年も式典のお手伝いをさせていただければ幸いです。運営全体の意見としては、細かい指示が行き届いており、とても良かったと思います。

している。雨天の場合、来賓挨拶者や代表献花者だけでなく、司会等にも傘を使用した方が良い。

■松島啓二さん

(日本内航海運組合総連合会)  
 初めて受付を担当。閉式後、懇親会場への移動バスに乗る方々が冷たい雨の中、長い間待っている姿は大変気の毒でした。雨の場合、増便するか、待機テントに椅子の設置を検討する必要があります。

■稲木隆宏さん(日本海事広報協会)

初参加で臨時駐車場係を担当。戸惑いでしたが仲間のサポートに感謝しています。歴史ある式典のスタッフになったことは良い経験でした。大勢の遺族や関係者の参列する姿を見て、若い世代も決して忘れず、次世代へ継承せねばならないと感じました。私にできることは、知見を広め、忘れないことだと思います。



献花された白菊は、お帰りの参列者に手渡された

■小林憲さん・藤原佑典さん

(大日本水産会)

今年も残念ながら雨。ご遺族や各界代表が献花されている姿を拝見し、哀しみの涙雨に感じ入りました。受付での会話からご遺族の心にも少しでも触れられたことは大変貴重でした。時代が代われば、国を背負い戦地に赴いていたかと思うと身の引き締まる思いでした。

意見としては、受付と案内係との連携について事前打合せを十分に。待機用テントがあれば良いと思う。

■渡邊泰輔さん (日本船長協会)  
 バス停の案内係でしたが、雨が降りしきる中で、会場への案内や閉式後のホテルへの移動に際して、高齢の参列の方々を待たせることになってしまつて、大変申し訳なく思いました。

■荒谷秀治さん

(全日本船舶職員協会)

式場前の車輛係を担当しました。冷たい雨の中で、ご遺族の高齢化と子供やお孫さんらしき参列者に歳月を感じました。

3歳ぐらいの子がバスから飛び出してきました。ご遺族の曾孫でしょうか、追悼式を継承していつて欲しいと思います。海運関係者だけの式典でなく、国民全員の平和祈念式典として冷たい海に散った船員に追悼の誠を捧げることを希望します。

■佐藤成秋さん

(海員組合関東地方支部「木洋会」)

ご高齢の方々が多く心配しましたが、無事終了して良かった。欲をいえば雨を凌ぐテントの増設を望みたい。分担や配置は、適切で初参加でも動きやすかった。式場口の車輛係は、交代なく担当していたのが気になった。ローテーションを組みトイレ休憩が必要だと思った。

殉職船員 11名 新たに奉安

殉職船員の調査は毎年行われ、遺族の了解が得られた方の芳名と没年月日を浄書した名簿を作成します。

本年4月18日に奉安された殉職船員は11名で、5月15日に執り行われた戦没・殉職船員追悼式で全国から400人を超える参列者から鎮魂の祈りが捧げられました。

全国にはまだ多くの方々がいるものと考えますが、個人情報保護の下で情報の入手が困難な事に加え、ご遺族の了解が得られないケースも少なくありません。また、船主あてに送付した奉安調査表が、船主の協力が得られず、遺族まで届かないことも多くみられます。

追悼式を前に本年は次の11名(引き船4名、タンカー2名、漁船5名)の方々の名簿を戦没船員の碑へ奉安いたしました。

- ▽飯森富蔵様 (有丸徳海運)
- ▽塚本善紀様 (大栄水産(株))
- ▽森 弘行様 (株丸辰商会)
- ▽梅田義弘様 (鈴丸)
- ▽伊藤良一様 (小名浜底曳網漁協)
- ▽糸坪秀雄様 (八戸みなと漁協)
- ▽濱久保光雄様 (八戸みなと漁協)
- ▽大段昌信様 (マツダマリン(株))
- ▽前田清政様 (マツダマリン(株))
- ▽水谷一義様 (株喜多組)
- ▽廣瀬若光様 (株喜多組)

皆さまのご厚情に感謝申し上げます

寄付金

- 森實様 (高槻市) ○宮川績様 (平塚市) ○海事思想普及研究会様 (神戸市) ○山下琥生様 (東京都世田谷区) ○鮫島庸一様 (掛川市) ○河合ハル子様 (横浜市)

追悼式献花料

- 坂元茂昭様 (赤穂市)
- 青函連絡船殉職者遺族会会長澁谷武彦様 (函館市) ○福田陽子様 (雲仙市) ○御代テル子様 (いわき市) ○南七郎様 (新潟県岩船郡) ○阪口勝子様 (草津市) ○川畑寛恵様 (明石市) ○嶋田早苗様 (八幡市) ○山田利政様 (松江市) ○村上菊野様 (北九州市) ○高等商船学校二期生会様 (横浜市) ○小松和夫様 (横浜市) ○大原亮治様 (横須賀市) ○横須賀市東部漁業協同組合鴨居支所様 (横須賀市) ○竹内次郎様 (さいたま市) ○水野孝子様 (新潟市) ○小林義隆様 (篠山市) ○渡辺光様 (山陽小野田市) ○高倉洋子様 (金沢市) ○

- 伊藤春子様 (豊田市) ○全日本海員生活協同組合様 (横浜市) ○荒谷秀治様 (横浜市) ○高等商船学校三期会様 (東京都北区) ○米山隆昭様 (東京都北区) ○長野ヨネ子様 (東京都渋谷区) ○飯田喜久三様 (東京都渋谷区) ○稲垣義夫様 (神戸市) ○福岡海寿会様 (福岡市) ○江藤政雄様 (和歌山市) ○伊藤郁子様 (東京都大田区) ○大圖富美子様 (水戸市) ○高垣宏江様 (神戸市) ○高垣幸徳様 (神戸市) ○尾崎秀子様 (神戸市) ○西川克巳様 (神戸市) ○古川昭様 (日立市) ○升田紀子様 (横浜市) ○高野さよ子様 (静岡市) ○山岸信一様 (前橋市) ○中野昭男様 (名古屋屋市) ○桜井正様 (千葉市) ○川村誠勝様 (北海道幌泉郡) ○大田要子様 (高知県幡多郡) ○小野寺麗子様 (気仙沼市) ○鴨居地区連合町内会様 (横須賀市) ○鴨居三軒谷町内会様 (横須賀市) ○浪速タンカー株式会社様 (東京都港区) ○宮越康郎様 (佐倉市) ○全日本海員組合本部総務部職員OB会様 (東京都港区) ○竹股静枝様 (東京都江東区) ○畑瀬忠之様 (鎌倉市) ○竹迫正子様 (南九州市) ○富士武光様 (札幌市) ○日本内航海運組合総連合会様 (東京都千代田区) ○財団法人全日本海員福祉センター常務理事福井和雄様 (東京都港区) ○財団法人日本船員厚生協会常務理事三尾勝様 (川崎市) ○財団法人船員保険会常務理事中澤

- 政光様 (東京都渋谷区) ○実穂海運有限公司様 (姫路市) ○南洋海運株式会社様 (藤沢市) ○豊丸漁業有限公司様 (横須賀市) ○財団法人日本船員福利雇用促進センター様 (東京都中央区) ○財団法人船員保険会様 (東京都渋谷区) ○全国海運組合連合会様 (東京都千代田区) ○公益財団法人水交会様 (東京都渋谷区) ○東郷会様 (東京都渋谷区) ○荒川博様 (東京都三鷹市) ○藤田俊夫様 (東京都大田区) ○都竹利年雄様 (東京都杉並区) ○三輪史郎様 (千葉県印旛郡) ○三宅弘様 (逗子市) ○横浜海員会館館長和田耕造様 (横浜市) ○曾根幸雄様 (横浜市) ○才津俊朗様 (横浜市) ○長島弘様 (横須賀市) ○五十嵐温彦様 (大和市) ○鈴木公彦様 (横須賀市) ○鳥羽商船同窓会様 (鳥羽市) ○高等商船学校一期会様 (横浜市) ○大船渡漁業無線局大船渡地区海難救助互助会様 (大船渡市) ○貝谷アキ子様 (一宮市) ○芳賀文男様 (横浜市) ○小林勇様 (横須賀市) ○安倍千恵子様 (名古屋屋市) ○日本郵船株式会社郵和会本部様 (横浜市) ○河合ハル子様 (横浜市) ○橋本進様 (藤沢市)

新たな協賛会員の皆様

- 加賀宗久様 (横須賀市) ○宮崎徳蔵様 (大阪市) ○水野正治様 (横浜市) ○植村睦子様 (鹿児島市)

## 稿 投

大叔父の鎮魂願い  
南大東島沖で

慰霊祭を挙行

協賛会員

井上 廣 (吹田市)

## 慰霊へのきつかけ

平成23年春に実家の仏壇の掃除をしていて、殉国院の御位牌を発見いたしました。当家は阪神大震災で全壊し、余震が続く中で苦勞して取り出した御位牌でした。英霊の存在を聞いていませんでしたが、御位牌を発見したことは、長男の私に供養せよと言っておられるのではないかと考え、調査を始めました。

御位牌には「俗名井上吾一39歳」とあり、祖父の弟(大伯父)と判明。「昭和19年3月1日午前4時、西太平洋方面海域の戦闘にて戦死。広島県暁2940部隊長佐伯文朗死亡報告」と記されていました。当時奥様がおられて、その後再婚され、子供がなかったことから本家に御位牌を託されたようです。

靖国神社崇敬奉賛会員である私  
が、このことを報告したところ丁寧なお返事と貴重な資料を頂きました。大伯父は、陸軍に徴用された日本郵船「崎戸丸」乗組員で、軍属として祀られていることが判りました。

そして「戦時徴用船遭難の記録画展」が大阪市立海洋博物館で開催されることを知ったのです。

8月28日、記録画を拝見後、相談コーナーで調査依頼したところ、貴重な資料を送って頂き、機関部1等操機手であったことも判りました。

## 陸軍徴用船「崎戸丸」

「崎戸丸」は、1万総トン級の最新鋭貨物船で、7隻の姉妹船がいました。大東亜戦争開始と共に徴用され、昭和20年までに全て戦没。「崎戸丸」の最期の航海は、昭和19年2月26日、3隻で船団を組み、駆逐艦「岸波」ほか2隻の護衛で宇品を出港。2月29日03時南大東島南西沖から米潜水艦に追跡され、17時53分南大東島南南東220カイリの海域で米潜「トラウト」の雷撃を受けて機関室に火災発生、19時退船命令の後、翌3月1日04時大爆発して沈没、歩兵18連隊の将兵、乗組員他2300余名が運命を共にしました。

昭和19年は閏年。雷撃された日に亡くなったと仮定すると、4年に1度の今年は17回忌に当たります。英霊が「せめて17回忌は頼むよ」と言われたものと確信いたしました。

## 洋上慰霊に向けて

菩提寺の宝塔寺住職を尋ねて、大伯父のお墓の所在を聞きました。戦時中に神戸の寺に墓を持つことは希と言われ、お墓は後日考えることにして、戦没海域に近い南大東島沖で

慰霊祭を行うことにしました。

私事としては、母親の介護もあって長年のトラック稼業を辞め、12月から神戸で自営の予定です。開業までの暫くは時間があることから、11月下旬の挙行を決めました。

南大東島へは空路もありますが、船乗りの慰霊ならば船旅が良いと考

## 慰霊の旅始まる

11月22日午後6時30分「琉球エキスプレス」に乗船、大阪南港を後に慰霊の旅が始まりました。フェリーの旅は43時間かかり、24日午前9時に那覇新港に着きました。当初は、この日に南大東島行き定期船に乗る予定でしたが、便の変更で那覇での長期滞在が免れず、急きょ明日の飛行機で島へ渡ることになりました。

一夜明けて25日朝、那覇空港で飛行機を待っている電話あり、「今日、船が出せそうなので到着後の午後に来てくれ」という南大東漁協からの連絡でした。

## 船べりに掴まり揺拌

午前10時10分の飛行機に乗って1時間余り、上空から見る緑鮮やかな島に到着。迎いの車で民宿に寄り、昼食後、漁協事務所から亀池港(南海岸)へ車で送ってもらうと、港には大型クレーンとクルーザー「ESPERANZI号」が待機していました。南大東島はサンゴ礁が隆起した島で、周囲は断崖絶壁で人を寄

え、大阪からフェリーで那覇へ行き、南大東島へは5日に1便の定期船で渡ることになりました。しかし、定期便の変更や天候に恵まれなかったことから、那覇―南大東島間は往復飛行機となり大変残念でした。この島は太平洋の絶海の孤島で、旅行中は常に天候に左右されたのです。

せ付けません。港は断崖を刳り抜いて造られ、常に高波が押し寄せるので船は陸上に保管し、必要に応じてクレーンで海に浮かべる方式です。クルーズ船に乗ると、あつという間にクレーンで吊り上げられて海上に着水。見た目には波が高く、この船では絶対酔いすると観念しましたが、船が動き出すとそれほどでもなく安堵しました。

島の南方沖5百メートルほど東へ進むと、うねりが次第に大きくなり、船長が「ここから引き返します」という海域で慰霊祭を行うことにしました。持参の焼酎と黒砂糖を海にお供えして、黙祷――。船の動揺が大きく、船べりに掴まりながら南南東を遥拝いたしました。

無我夢中であつという間に終わった感じですが、北寄りの風が島陰になる海域だから船が出せたようです。島の天候は安定せず、滞在4日間のうち船が出せたのはこの日のみ、この幸運は英霊の皆様が慰霊祭を喜んでくださった証と思っています。

# 殉職船員 遺族からのお便り

本紙夏号は殉職船員遺族の方々からのお便りを紹介しています。現在、遺児援護金の給付対象遺児は11人。紙面の都合ですべての紹介はできませんが松田忠士さん(高校2年生)のほか、5人の保護者からの便りを紹介します。

## ■松田忠士さん(愛媛県松山市)

父が亡くなってもう10年になりました。当時のことはあまり覚えていません。気がつくと大勢の人が家に集まってきて、僕はにぎやかで今日は何かあるのかな? くらいしか思っ

ていなかったと思います。父はいつも家になかったし、それが普通だったの。僕は、お葬式のお別れの時、次第に状況が分かってきて泣きました。泣いて泣いて母に抱かれ、母の着物がぐちゃぐちゃになるまで泣きました。あれからかなりの時間が過ぎま



食事中の忠士さんと兄、義生さん

した。今まで色々な事がありました。が、家族みんなで助け合って、今までやってこられました。

僕は、小学校1年生からリトルリーグに入らずと野球をしていました。父とキャッチボールをしたことはないですが、母とは暇があれば庭でキャッチボールをしていました。今は高校2年生、後2カ月もすれば自分達の時代がやってきます。野球をしていたから寂しいことも辛いことも乗り越えてこられた気がします。甲子園めぐりがんばっています。

将来は、スポーツトレーナーとして、スポーツをしている人の役に立てるような人間になりたいと思っています。そして僕は、ほかの兄弟と違って父の思い出があまりないのですが、その分、辛い思いをした家族を支えていきたいと思っています。

## ■岡元美紀さん(高知県室戸市)

長い間ありがとうございました。3月1日に無事高校卒業することができました。4月からは県外の学校へ進学することが決まり、今は一人暮らしのための準備に追われていま

## 殉職船員遺児へ 援護金を支給

当会の事業に商船で殉職された船員の遺児に返還義務のない援護金を給付する制度があります。支給額は1人月額8千円のほか、入学記念品代として小学校入学時に3万円、中学校入学時と高校入学時には、それぞれ1万円を給付します。詳しくは、当会事務局へお問い合わせください。なお、漁船乗組員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会が援護事業を行っています。同会にお問い合わせください。

す。昨年の義母に続いて、今年は父が亡くなり、それぞれが大きな変化のある年になりそうです。これからも、親子三人頑張つてまいります。本当にありがとうございました。

## ■大竹初美さん(三重県度会郡)

いつも応援して頂きありがとうございます。大変助かっていて感謝しています。子供たちは、4月から高校2年生と小学校6年生になります。元気で育っていることがとても嬉しいです。子供たちの心も少しずつ成長し、ケンカも少しずつ減り、会話も楽しくできるようになりました。家族3人で出かけるのが嬉しいです。家族3人で出かけるにも、私の負担もずいぶん少なくなつてきました。

## ■中野幸枝さん(宮城県気仙沼市)

震災から一年、あつという間に過ぎたような年でした。子供も他の学校に行ったり来たり。体育館がないので移動の毎日です。今年は寒い冬だったので交通の便が悪い分通学も大変だったようですが、春休み中も毎日のように部活に通っています。祖父母も養殖ができるよう支援を

いただき、仲間達と助け合いながら頑張っています。後2年励ましながら頑張りたいと思います。

## ■高橋弘子さん(宮城県石巻市)

僕も無事3年生に上がることができてホッとしています。通学を今後どうしたら良いか不安だらけです。飛翔も何とか2年生になり、本当の一人暮らしが始まりました。父に続いて祖母が亡くなり、子供たち2人は本当の意味で男としてのスタートラインに立ちます。後何年見守ってあげたら良いのでしょうか。2人は、まだまだ世間知らずのおぼっちゃま

## ■鎌野智美さん(徳島県板野郡)

いつもお世話になりありがとうございます。この一年病気やけがもなく健康に過ごすことができました。月日の過ぎるのは早いもので高校2年になります。部活(弓道)、春期講習と充実した春休みを過ごしています。今後ともよろしく願います。

# 年間700件

# 戦没船員功績等調査事業

戦没船員遺族や軍人遺族のほか、海事関係者や報道、研究者、一般の皆様からの調査依頼は、年間約100件に上ります。平成22年度は107件、23年度は93件の問い合わせがありました。その内訳は、戦没船員遺族から35件、船員OB17件、軍人遺族10件、報道関係・研究者24件、その他が7件です。その中のいくつかを紹介します。

## 細井輝房さん (千葉市)

メールで「大叔父は徴用船員で戦没したと聞いていたが、その様子は何も分からない。知らなければいけない身内も少なくなつて、今のうちに知っておきたい」と問い合わせがありました。

当会資料を調べた結果、海軍徴用船「黄海丸」に乗船中、ニューギニアで戦没されたとの記録が見つかり、コピーを資料として送付し、観音崎公園「戦没船員の碑」に奉安されていることを伝えると、お礼の電話があつて協賛会員になることを希望されました。

## 横山佳則さん (横浜市)

当会のホームページから「私の兄は『白鷹丸』で戦死しました。靖国神社と護国神社に赴いて慰霊を行っています。『戦没船員の碑』に兄が奉安されているのか知りたい」との問合せがありました。

当会の奉安者名簿に兄上のお名前があり、毎年5月中旬に追悼式を挙行されていることを知らせたところ、協賛会員になられ第42回追悼式に初めて参列された。

## 伊藤真由美さん (東京都)

当会ホームページを見たことから「戦死した祖父について、何でも良から知りたい」とメールで質問がありました。

調査の結果、伊藤さんの祖父は「香洋丸」船長で昭和19年に小笠原沖で被雷、乗組員33人と軍人1046人と共に戦死されたことが分かりました。関連資料を送付したところ、伊藤真由美さん父親、伊藤通浩さんが協賛会員になられ、伊藤真由美さんが第42回追悼式に初参列された。

## 片平清さん (北海道)

「大津山丸」生還船員の片平さんから「図書館で読んだ『186船団』という本に「大津山丸」の戦没当時

の記事が載っていた。執筆者Kさんは顕彰会に問い合わせたと書いてあり、Kさんと連絡を取りたい」との電話がありました。

本会が個人情報を持つ「大津山丸」関係者2人で、寄稿したのはKさん

と判明。本人の了解の下に片平さんに報告すると、二人はさっそく連絡を取り合い、第42回追悼式で会う約束をしました。しかし、式典間際に片平さんの体調が悪くなり、残念ながら会うことはできませんでした。

# 終戦記念日献花式



終戦記念日(8月15日)に観音崎公園「戦没船員の碑」で献花式を行います。ご案内するのは、当会役員など約60人ですが、どなたでも参列することが出来ます。参列される場合は、バス等の関係から顕彰会に必ずご連絡ください。

- ▼午前11時観音崎京急ホテル集合
- ▼同30分マイクロバスで戦没船員の碑へ
- ▼同50分慰霊碑の献花台前に整列
- ▼「全国戦没者追悼式」のラジオ実況放送に合わせて総理大臣式辞
- ▼12時黙とう、戦没船員の御霊を追悼し、海洋永遠の平和を誓います。
- ▼同02分天皇陛下お言葉聞き、閉式。
- ▼マイクロバスで観音崎京急ホテルへ戻って昼食・解散となります。
- 服装は、白ワイシャツに黒ネクタイの軽装でお願いします。
- 例年、役員の方、海事関係者や当会役員経験者など30人余が参列し哀悼の誠を捧げます。

# お知らせ

公益財団法人日本殉職船員顕彰会  
電話 03-3234-0662

# 顕彰会事務局だより

TEL 03-3234-0662  
FAX 03-3234-0682

公益財団法人日本殉職船員顕彰会は、理事会と意思決定機関である評議員会が年度ごとの事業を計画・検証し、業務執行役員を先頭に事務局が業務を執行しています。

3月の会議では主に事業計画と予算を、6月の会議では主に事業報告と決算を審議・決定し、公益法人としての事業の方向付けを決めます。

6月に開いた会議では、事業報告と決算を承認したほか、次の評議員と理事の交代がありました。

## 業務執行役員

### 理事長が交代しました

白居さんから植村さんへ



退任 あいさつ 白居 勲

7月1日付で九年余りの任期を終えることになりました。この間、戦没・殉職船員ご遺族はじめ関係省庁・海運・水産関係諸団体の皆様には、格別なご支援をいただき、誠にありがとうございました。振り返れば忘れ得ぬことが数多く

## 評議員の交代

▽小坂智規(大日本水産会前常務理事)→齋藤壽典(同常務理事)▽駒崎一美(日本海事広報協会前常務理事)→松尾龍介(同常務理事)▽眞鍋貞隆(日本旅客船協会前常務理事)→大脇 充(同常務理事) 理事の交代 ▽白居 勲(日本殉職船員顕彰会理事長)→植村保雄(日本船主協会元常務理事)

理事の交代は業務執行役員(理事長)であるため、別途の手続きを経て承認されました。

ありました。なかでも天皇皇后両陛下を三度もお迎えしたことでした。平成17年7月の遺族の集い、同年10月、葉山ご静養の折のご供花、そして平成22年第40回追悼式でした。いずれの折も、両陛下がお示しになられた御霊とご遺族への思し召しの深さに強く感銘いたしました。

また、毎年各地で開催した「戦時徴用船遭難の記録画展」では、ご遺族の方々が、悲痛な思いで大久保画伯の遺作の前に佇んでおられたのが、眼に焼き付いています。昨年4月、本会は公益財団法人に認定され、あらたにスタートを切りました。その諸準備と発足後の運営に役職員が絶大な努力をされたことも決して忘れることはできません。

## 編集後記

編集を手がけて4号目、重ねる度に悩み多し。年2回の発行は、加齢と共に建付け悪い引き出しの軋み甚だしく、何処へ入れたか探すこと多くなり、12頁を埋めるのに手こずること頻り。

また、会員報告の機関紙と国民周知の広報紙の二役を併せ持つものの、記事は事業報告が中心になること避けがたく、マンネリ化も否めない。同じ作るなら、無い中にも変化を求

め、読んでもらえるものに仕上げたい。そう望みつつ仕上げたものの、本号も合格点をいただけそうにない。

そんな中で本号の特徴を挙げれば、投稿・寄稿2件が異彩を放つ。田中善治氏の「かく濡れて」は、式典に遅参したご遺族の様子を克明に綴ったもの。井上廣氏の「洋上慰霊紀行」は、大叔父の御位牌発見から供養を思い立つ強い思いが伝わる。読み物はいろいろな書き手がいて面白い。次号以降も読者の投稿をお待ちしたい。(編集室)

## お知らせ

**第38回 「戦時徴用船記録画展」**  
を9月8日(土)〜9月17日(祝)の会期で横浜市みなとみらい帆船日本丸「横浜みなと博物館」特別展示室で開催します▼入場無料ですが、博物館の常設展示コーナーには有料ですのでご注意ください▼入場は同じ入口から入り、途中から別ルートになります▼案内板の印に従って特別展示室へお進みください▼観覧時間は、

博物館と同じ午前10時から午後5時まで。最終日(9月17日)は午後3時までなのでご注意ください▼昨年8月の大阪展を機会にドキュメンタリー工房(大阪市)は、記録画37枚と大久保画伯はじめ関係者、生存船員の証言などをテーマに60分〜90分番組を制作中です▼作品はNHKのEテレで8月放送を目指して追い込み態勢に入っています。

最後に、本会および後任の植村理事長に、変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 就任 あいさつ 植村 保雄

理事長をお引受けすることになり、身のひきしまる思いです。

今まで、別の立場で何回か「戦没殉職船員追悼式」に出席し、献花をしておりました。何年前か、天皇・皇后両陛下が来られたとき、両陛下が静かにおだやかに献花される姿を拝見し、感動いたしました。そのよ

うな行事を担う殉職船員顕彰会に奉職させていただくことは、この上ない名誉なことと考えています。

観音崎の戦没船員の碑とそのむこうにある浦賀の海を眺めるとき、また、海で亡くなられた船員の方々のことを思うとき、これら多くの方々の犠牲の上に我が国の今があることを感じます。このことを後の世代にしっかりと伝えていかなければならないと思います。海洋国家日本の魂の礎として本会がその役割を果たしたものです。